

ヘブル語のアラカルト

トールドートの秘密

H. Meigata
2020.9.17

No.1

ヘブル語のアラカルト

聖書における「歴史」は神の啓示の舞台です。歴史のことをヘブル語で「トールドート」と言います。「トールドート」は、他に「系図、系列、由来、路線」とも訳されます。神の約束は歴史の中で語られ、歴史において実現します。それゆえ、人間の歴史(系図)はとても重要なのです。

ヘブル語のアラカルト

【新改訳2017】 マタイの福音書 1章1節

「アブラハムの子、ダビデの子、イエス・キリストの系図。」

イエス・キリストの系図がアダムから始まっていなければ、キリストは「最後のアダム」とは言えないはずですが、では、なぜ、マタイは系図をアダムから始めなかったのでしょうか？

ルカの福音書では、イエシュアはヨセフの子として、順次、遡って、アダムに至り、アダムは神の子だと記されています(3:23~38)。

答えのヒント

イエス・キリストの系図には、始まりがアダムであることが記されています。どこに？

ヒントは、1章1節の中にあります。

※ヘブル語の知識が多少あれば、分かるはずです。

アブラハム～ダビデまでが14代

ダビデ～ヨシヤまでが14代

エコニヤ～イエス・キリストまでが14代

**マタイは系図(トールドート)を三つの段階に分けて、
それぞれが14代に整理しています。**

それぞれが14代に整理しているのは、
イエシュアがダビデ王の系図であることを
強調しています。マタイの1章6節を見ると、
この箇所だけ「**ダビデ王**」と表示されています。

ダビデのヘブル語表記は **TIT** です。

この**TIT**を数字に置き換えると **4+6+4=14**

アブラハム

אברהם

ダビデ

דוד

イエス・キリスト

משיח

アブラハム

אברהם

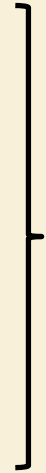
ダビデ

דוד

イエス・キリスト

משיח

אדם



※母音記号をつけて読んでみよう。

アブラハム

אַבְרָהָם

ダビデ

דָּוִד

イエス・キリスト

מְשִׁיחַ

אַדָּם



※※ さらなる驚きは、

固有名詞のアダムだけでなく、
妻のエバの名前(ハツヴァー)も隠されています。

アブラハム

אַבְרָהָם

ダビデ

דָּוִד

イエス・キリスト

מִישִׁיחַ



אַדָּם

※どこに隠されているかといえば、青色の部分。

アブラハム

אַבְרָהָם

ダビデ

דָּוִד

イエス・キリスト

מְשִׁיחַ

אָדָם

חַוְיָה



マタイはヘブル語で福音書を書いた

このようなことは、日本語に翻訳された聖書では分かりません。ヘブル語で読む時に、初めて秘密が明らかにされるのです。